

# 福島子ども健康プロジェクトだより

## Vol.3

### 福島を記憶を未来へ：記録なくして事実なし

かつて「記録なくして事実なし」という言葉で、記録を残すことの大切さを訴えた人がいました。原発事故が「からだ」、「こころ」、「つながり」にどのような影響をもたらすのか。福島県中通り9市町村に住んでいる親子の生活と健康を定期的に記録し、次の世代に伝えていく。そのために、2013年から毎年1月にアンケート調査、毎年3月と8月にインタビュー調査を行っています。そして、2019年には、これまでの7回の調査の回答結果を、回答者自身が振り返ることができるように「振り返り手帳」として制作し、お送りいたしました。2020年は、ワークショップ「語り合いの場ふくしま」を開催し、調査参加者同士の交流を行っています。コロナ禍において、原発事故後の生活を振り返り、語り合うことによって、多様な体験をより多くの方と共有する機会としたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

2020年12月1日

福島子ども健康プロジェクト 成元哲

2011年3月 東日本大震災・原発事故

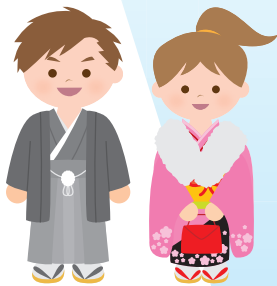
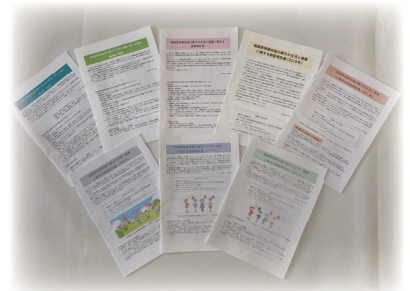
2013年1月、9市町村の2008年度生まれ全員に宛てて、福岡大学医学部から「福島原発事故後の親子の生活と健康に関する調査」と題したアンケート調査票（第1回）を発送

2015年4月 小学校入学

2018年1月 1/2 成人式

2021年1月  
アンケート調査票  
（第9回）を発送予定

2021年3月 小学校卒業  
大震災・原発事故から10年



# 活動記録(2019.7～)



(下線のあるものは、福島子ども健康プロジェクトのホームページからダウンロードしてご覧いただけます)

- 2019.7 「福島子ども健康プロジェクトだより Vol.2」を発行。
- 2019.7 『中京大学現代社会学部紀要』に「福島の母かく語りき」を掲載。
- 2019.8 福島市、郡山市、本宮市で、アンケート調査対象者に面会し、今後の取り組みについての要望などを聞くインタビュー調査を実施。
- 2019.10 第92回日本社会学会大会(東京女子大学)で「福島における分断修復学の創成」という題で研究成果を報告。
- 2019.10 「親子をつなぐサポートブック『GIFT BOOK』」を発送開始。
- 2019.11 「ふり返り手帳」を申込された調査対象者へ発送。
- 2019.11 「ふり返り手帳」と「親子をつなぐサポートブック『GIFT BOOK』」を手にとったご感想をお聞きするために、福島市、郡山市でインタビュー調査を実施。
- 2019.12 調査対象者の子どもたちにクリスマスカードを送付。
- 2019.12 『中京大学現代社会学部紀要』に「長期追跡調査における調査者と調査参加者の関係の変容—福島原発事故後の親子の生活と健康に関する調査2013年～19年を中心に—」を掲載。
- 2020.1 第8回アンケート調査を実施。
- 2020.4 第8回調査報告書を作成し、調査対象者、福島県庁、9市町村役場、報道機関に送付。
- 2020.6 『中京大学現代社会学部紀要』に「原発事故10年目の春、福島の母親たちの声」を掲載。
- 2020.11 ワークショップ「語り合いの場ふくしま」を郡山市と福島市で開催。

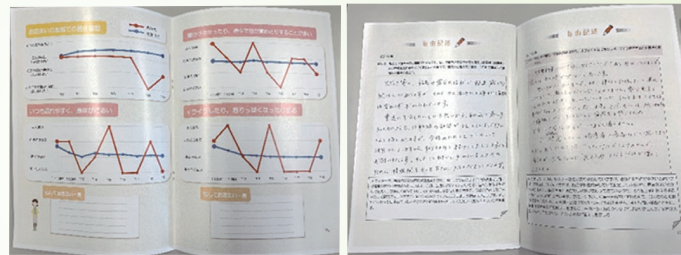


## ふり返り手帳

これまでのアンケート調査の回答を冊子としてまとめ、「ふり返り手帳」を制作しました。「親子をつなぐサポートブック」と同様に、これを利用して東日本大震災・原発事故後の生活をふり返り、次の一步を踏み出すきっかけになればと考えました。

これまでアンケート調査に回答した 932 名にふり返り手帳の案内を送付し、93 名から送付希望の返信ハガキが届きました。その 93 名の希望者に第1回調査から第7回調査までの回答の変化を示すグラフと自由回答欄の声を掲載し、「ふり返り手帳」を作成、送付しました。

来年は調査対象者の子どもたちが小学校卒業という大きな節目を迎えます。それに合わせて、第9回のアンケート調査までを含めた『最新版ふり返り手帳』の制作を検討しています。



### ふり返り手帳を受け取った方の感想



#### 福島市のKさん

ふり返り手帳の自由記述を読むと、その時その時で色々考えてたんだなあって思いました。悩んでいたというか考えて

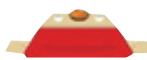
ていたことを、こうやって残っているっていうのはすごくありがたい。自分でも、その時その時の考えというのは書き留めていないので。その時は真剣に答えるんですけど、答えて送ってしまうとまた日常に引き戻されて、毎日が忙しくて。これまでの自分の回答を通して見ることは今までなかったので、今回初めてそれをグラフにってもらって、自分の言葉を読むと、ずっと一貫して「心配だ」っていうことを書いてありました。それはずっと頭から離れないんだな、という発見がありました。

#### 郡山市のUさん

子どもに見せるというよりは、自分の記録としてとっておけるものだと思います。

過去の自由記述を読むと、その時の自分の心情を思い出せますね。葛藤してた、不安だったなど。読んでいくと、生活が落ち着いていくのがわかります。こうして書いたものが戻ってきて、(これまで受身的に協力してきた調査が)自分のものになった感じがします。





# ワークショップ「語り合いの場ふくしま」(第1回)開催報告



コロナ禍という厳しい環境の中ではありますが、調査参加者同士の交流を図るためのワークショップ「語り合いの場ふくしま」を開催することができました。ワークショップに参加された皆様、そして、この場をご支援いただいた皆様、ありがとうございました。

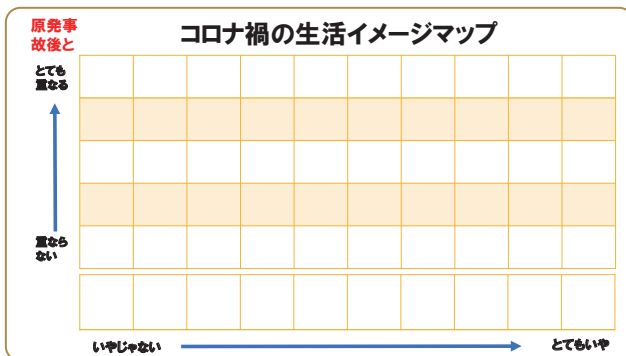
ワークショップ「語り合いの場ふくしま」は、当初、2020年2月と3月に開催する予定でした。しかし、コロナ禍により延期し、その後も、オンラインでの開催を含めて何度も試みましたが、いずれも開催に至りませんでした。それが2020年11月にようやく開催に漕ぎつけることができました。

ワークショップでは簡単な自己紹介のうえ、「コロナ禍の生活イメージマップ」を使って、コロナ禍で特に印象深い出来事を原発事故後の経験と比較して、自由に語り合いました。今後、毎月一回の間隔で開催することができればと考えています。ご都合がつく方は是非ご参加ください。これまで9年間、調査する側(調査者)と調査される側(調査参加者)として向き合う関係でしたが、ワークショップ「語り合いの場ふくしま」の開催を通じて、調査対象者同士をつなぐことができ、その次は、調査対象者以外にもつなぐことになればと考えています。

## 「コロナ禍の生活イメージマップ」ワークシート

今回のコロナ禍で、特に印象深い出来事、ベスト10は？

自分の体調が気になった(健康不安)	子どもや家族の体調が気になった	仕事(の継続)が気になった	仕事がなくなった(失業)	収入が減った	ニュースが気になった
いろいろな予防法を探した・試した	休校になった	家事が増えた	食費が増えた	(食費以外の)出費が増えた	家族で過ごす時間が増えた
人に会いにくくなった	気軽に外出できなくなった	(病院)受診するのが慎重になった	美容室に行きにくくなった	運動不足になった	体重が増えた
外出時はマスクをするようになった	友人・知人の温度差を感じた	同居家族との温度差を感じた	同居以外の家族との温度差を感じた	3密を気にするようになった	Withコロナのライフスタイルを確立した
もやもやした感じがする	人の目が気になった	差別を感じた	わかりあえない	将来への不安	お稽古事・スクール等が休みになった



### ワークショップ参加者の声



#### 郡山市のSさん

この10年、家族や子ども、そして生活を守るのに無我夢中であっという間でした。みなさんのお話を聞いてみたい。子育ての悩みや、今抱えている問題など、大変なのは自分だけじゃない。みんなも同じ。そう思ったのが参加しようと思った理由です。いろいろなお話を聞いて貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。将来について一度ちゃんと家族と息子と話をしよう決めました。

#### 郡山市のKさん

今回参加した理由は、どんな方が調査をされているのか会ってみたかったこと、同世代の子育ての情報交換、放射線について気をつけていることはあるのか、保養には行っているのか、身近な方で震災後、長く避難している方はいないので、避難されて戻ってきているならどんな生活だったのか、お聞きしてみたかったことなどです。参加者の皆さんの発言の中で、震災後の方が子どもたちを守る術が見えず、辛かったと話されていることは同感でした。福島県に暮らすもの同士、今回のように吐き出したいものは吐き出してまた明日を生きていければ良いと思いました。

## 今後の予定 (※コロナ禍の影響により、日程やオンライン開催など変更の可能性があります)

福島市内	1月23日(土) 14:00～16:00
	2月21日(日) 10:00～12:00
	3月20日(土) 14:00～16:00
郡山市内	1月24日(日) 10:00～12:00
	2月20日(土) 14:00～16:00
	3月21日(日) 10:00～12:00

※ワークショップは新型コロナウイルス感染症対策(マスク着用、換気・消毒など)を実施のうえ行います。  
※場所は福島市内と郡山市内を予定していますが、詳細については追って連絡します。オンライン開催となった場合、自宅での参加が叶わない方は、オンライン会場を用意する予定です。  
※これまでのアンケート結果、「ぶり返り手帳」などをお持ちの方はご持参ください。  
※出席者には交通費(実費相当額)、薄謝(クオカード2000円分)をお渡しします。



**母親らも励まし合える場**

福島県いわき市にある「いわき市立中央公民館」で、母親たちが集まり、子育ての悩みを話し合っている。この日は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、子どもたちの生活に大きな影響が出ている中、母親たちが互いに励まし合える場を求め、集まった。公民館では、子育て支援の一環として、母親たちの悩みを聞き取り、情報提供や相談を行う。また、子どもたちの健康や生活の様子についても話し合っている。

**早期再開見通せず**

福島県いわき市にある「いわき市立中央公民館」で、母親たちが集まり、子育ての悩みを話し合っている。この日は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、子どもたちの生活に大きな影響が出ている中、母親たちが互いに励まし合える場を求め、集まった。公民館では、子育て支援の一環として、母親たちの悩みを聞き取り、情報提供や相談を行う。また、子どもたちの健康や生活の様子についても話し合っている。

**「私たちだけリスク倍に」**

福島県いわき市にある「いわき市立中央公民館」で、母親たちが集まり、子育ての悩みを話し合っている。この日は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、子どもたちの生活に大きな影響が出ている中、母親たちが互いに励まし合える場を求め、集まった。公民館では、子育て支援の一環として、母親たちの悩みを聞き取り、情報提供や相談を行う。また、子どもたちの健康や生活の様子についても話し合っている。

**NGO「孤立防ぐ環境づくりを」**

福島県いわき市にある「いわき市立中央公民館」で、母親たちが集まり、子育ての悩みを話し合っている。この日は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、子どもたちの生活に大きな影響が出ている中、母親たちが互いに励まし合える場を求め、集まった。公民館では、子育て支援の一環として、母親たちの悩みを聞き取り、情報提供や相談を行う。また、子どもたちの健康や生活の様子についても話し合っている。

**福島の子を招く 保養**

**「3密」に該当 苦渋の自粛**

福島県いわき市にある「いわき市立中央公民館」で、母親たちが集まり、子育ての悩みを話し合っている。この日は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、子どもたちの生活に大きな影響が出ている中、母親たちが互いに励まし合える場を求め、集まった。公民館では、子育て支援の一環として、母親たちの悩みを聞き取り、情報提供や相談を行う。また、子どもたちの健康や生活の様子についても話し合っている。

**放射能気にせず遊べるはずが**

福島県いわき市にある「いわき市立中央公民館」で、母親たちが集まり、子育ての悩みを話し合っている。この日は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、子どもたちの生活に大きな影響が出ている中、母親たちが互いに励まし合える場を求め、集まった。公民館では、子育て支援の一環として、母親たちの悩みを聞き取り、情報提供や相談を行う。また、子どもたちの健康や生活の様子についても話し合っている。

見えない恐怖…子どもへの影響「原発事故後の避難生活と共通点」

2020年4月16日(木) KHB東日本放送

目に見えないウイルスへの不安、長期化する学校の臨時休校。異例の事態に子どもたちや保護者はどう向き合えばいいのか。専門家に聞きました。

福島県の子どもの生活と健康に関する調査を続けている中京大学の成元哲教授。新型コロナウイルスが子どもたちにもたらす影響は原発事故後の避難生活による影響と共通点があると指摘します。

成元哲教授「放射能もコロナウイルスも目に見えないものなので、それをどう受け止めるという問題で、大人が不安になっていたり、不安をめぐって、危険なものめぐるって、例えばお父さんお母さんが認識のずれがあって言い争いをしたりとかを見ると、子どもも当然ながら不安になる」。

原発事故では外で遊べないなどの制約が子どもの運動不足やストレスの原因となりましたが、今回は屋内での活動も制限され、よりストレスを抱えやすい状況にあります。

成元哲教授「一方ではすごく厳しく注意して、他方ではいいよいいよみたいな形になると、子どもはどうしたらいいんだろうと感じると思うのです。それぞれ様々な対応、様々な認知の仕方があっていいんだということを確認し合うことが必要ということが前回の教訓としていま考えられることかなと思います」。

先行きが見通せない点も共通していて子育てに不安を感じる保護者へのケアが必要だと話します。

成元哲教授「福島でもそういったときは皆さん保養に出かけたりして、保養の場所で自分たちの思いの丈を共有して自分だけじゃないんだということをお互いに共有して励ましたり励まされたりということがあったが、空間をともにしながら思いの丈を語り合うというのはなかなか難しくなるかもしれないので遠隔でオンラインでバーチャルで関係性を持ってお互いの経験を共有できる場があれば、少しは先が見えて来るのではないかな。今までだったら例えば虐待なりなんなり問題があったら児童相談所とかそういう限られた場所しかないんで、そうじゃなくて、もう少し家庭に対するリスクを相談できるようなそういうところを増やしていくということなるだろう」。



皆様からのお便りやご意見をお待ちしています。右記までお寄せください。



〒470-0393 愛知県豊田市貝津町床立 101  
中京大学 成元哲研究室  
TEL & FAX: 0565-46-6516 (直通)  
E-MAIL: sungwonc@sass.chukyo-u.ac.jp  
HP: https://fukushima-child-health.jimdo.com/

